

2日 土曜

ヘブル

2:1 こういうわけで、私たちは聞いたことを、ますますしっかりと心に留め、押し流されないようにしなければなりません。

2:2 御使いたちを通して語られたみことばに効力があり、すべての違反と不従順が当然の処罰を受けたのなら、

2:3 こんなにすばらしい救いをないがしろにした場合、私たちはどうして処罰を逃れることができるでしょう。この救いは、初めに主によって語られ、それを聞いた人たちが確かなものとして私たちに示したものです。

2:4 そのうえ神も、しるしと不思議と様々な力あるわざにより、また、みこころにしたがって聖霊が分け与えてくださる賜物によって、救いを証してくださいました。

2:5 というのも、神は、私たちが語っている来たるべき世を、御使いたちに従わせたのではないからです。

2:6 ある箇所、ある人がこう証しています。「人とは何ものなのでしょう。あなたがこれを心に留められるとは。人の子とはいったい何ものなのでしょう。あなたがこれを顧みてくださるとは。

2:7 あなたは、人を御使いよりもわずかの間低いものとし、これに栄光と誉れの冠をかぶらせ、

2:8 万物を彼の足の下に置かれました。」神は、万物を人の下に置かれたとき、彼に従わないものを何も残されませんでした。それなのに、今なお私たちは、すべてのものが人の下に置かれているのを見てはいません。

2:9 ただ、御使いよりもわずかの間低くされた方、すなわちイエスのことは見ています。



イエスは死の苦しみのゆえに、栄光と誉れの冠を受けられました。その死は、神の恵みによって、すべての人のために味わわれたものです。

イエス様の大きな權威を語った後に、「ですから」と信仰を堅くすることを勧めています。私たちはあらゆる困難や誘惑に対して信仰で勝利してゆく必要がありますが、それは御子であるイエス様をどう理解しているかにかかっているのです。イエス様の主権を認めつつ、感謝して愛する者は信仰が揺らぐことはありません。

「こんなにすばらしい救いをないがしろにしたばあい、どうしてのがれることができません。」とありますが、私たちは「ないがしろにせず」受け入れることができました。それは聖霊によることですから、本当に感謝しなくてはなりません。また他の人の救いのためにも、「ないがしろ」にならないために、真心から伝えるべきです。

神様は伝道の栄誉ある働きと、千年王国の支配権を天使ではなく、クリスチャンにお与えになりました。不思議なことですが、それは驚くべき栄誉なのです。

死に至ったイエス様を思いながら、そして「万物をその足の下に従わせられました。」という權威あるイエス様を思いながら、主の誉れある人生を全うしましょう。

①神のみこころは？（信仰のあり方、希望の約束、愛の満ちしなど）

②どんな思いになりましたか？（感情や願いなど）

③生き方にどう適用しますか？（あなたのどの部分を主は扱おうとしておられますか）

④この世にあって何を実践しますか？

